

# 開学記念特別号発刊のことば

学 長 柚 木 学

このたび、大阪明浄大学が開学の運びとなり、開学記念特別号が刊行されることになりました。大変めでたいことであり、心からお喜び申し上げます。

しかし男女共学の四年制大学新設の現在の教育環境や社会状況は、新しいミレニアムの幕明けとともに、きわめて厳しい情勢のもとにおかれています。そして日本をとりまく国際情勢も、米ソ対立の冷戦下の雪どけのあと、民族対立や地域紛争をまじえて、複雑な国際政治に取り囲まれています。進展する国際化、バブル経済の崩壊、情報ネットワークの拡充 **etc...**、いまや日本は **21** 世紀を目前にして大きな転換点にさしかかっています。この混迷の時代に直面して、あらためて観光が注目されているといえるでしょう。

欧米では、早くから観光は文化だと考えられています。なぜなら、観光とは人生を豊かにするものであり、文化や習慣・環境といったさまざまな要素を理解してこそ成り立つものだと理解されてきたからです。その点では日本でも、次第に観光のとらえ方が変わりつつあります。それは日本人のライフスタイルが変化し、より心の豊かな生活を求める人たちの、観光に対し要求するクオリティも高まってきているからといえるでしょう。かつての高度成長期の重厚長大産業を基盤とした貿易立国から脱却して、経済のたんなる量的拡大から人間交流の異文化理解への心の豊かさへの質的転換が求められています。

同時に真の豊かさの実現に向けて、観光は **21** 世紀の経済発展を担う重要な産業として脚光を浴びつつあります。平成 **7** 年に出された「観光政策審議会」答申でも、すでに観光を将来の成長産業と位置づけたうえで、「人材の育成と総合的な研究を行う観光大学のような高度教育機関の整備が必要である」と説いています。

大阪明浄大学観光学部の開学は、このような社会全体と時代の要請に応じて実現することができました。さらに、大阪府下の関西国際空港に隣接しているという国際色豊かなロケーションに加えて、大阪、京都、奈良、神戸、和歌山といった歴史豊かな文化遺産と自然景観、それに観光資源に恵まれた都市群をその背景にもっていることも、観光学部にふさわしい立地条件を備えているといえます。

最後に、大阪明浄大学の開設準備の段階から、規模は小さくても特色ある大学を創りたいという願いと情熱を抱いており、その結果として優れた指導力と卓越した研究能力をもった方々に参加していただき、その総力をあげて新大学の教育研究を開始するにいたりました。幸いにして、関係各方面の方々のご尽力・ご協力によりこの念願が達成され、大阪明浄大学は順風満帆、恙なく開学の幕があき、ここに着実にその第一歩を踏み出すことができました。

かくして、本学の開学を記念し、日ごろの研究活動の一端を論文集として刊行できたことは、きわめて意義深いものであります。関係各学界における研究の進展に必ずや貢献するところ大きいものと確信いたします。最後に執筆者をはじめこの記念号編集委員会委員、事務担当職員各位の労に感謝し、あわせてこれを契機として本学の研究活動が一層推進され活発化されていくことを願うものであります。

(平成 **12** 年 **3** 月)